

令和2年8月4日

静岡県知事 川勝平太 様

ふじのくに県民クラブ

会 長 阿部 卓也

政調会長 山崎真之輔



「感染急拡大の危機をオールしずおかで乗り越える」 新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望書

浜松市や熱海市、富士市でのクラスター発生を機に、県内の新型コロナウイルス感染者が急増し、警戒感が大きく高まってきています。同時に、心ない誹謗中傷やデマが蔓延し、県民も疑心暗鬼になる中で、回復しかけた経済の急速な冷え込みが懸念されます。そんな今だからこそ、強力なリーダーシップの下に、適切かつ正確な情報発信と県民に寄り添った迅速な施策の執行が求められています。

そこで、この危機をオールしずおかで乗り越えるために、下記の通り緊急要望を提言しますので、何卒ご対応下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 感染拡大防止対策について

(1) PCR 検査体制

- ・ 究極的には「いつでも、誰でも、何度でも」検査が受けられるよう、県内におけるPCR検査体制の一層の拡充を行うこと。特に、重症化リスクの高い高齢者や障害者に関わる医療機関や福祉施設の従業員等に対しては、優先的にPCR検査が実施できる体制を構築すること。また、こうした各施設での感染防止マニュアルを作成し、広く展開すること。

(2) 医療提供体制

- ・ 今後の不測の事態に速やかに対応できるよう、軽症者用ホテルを県西部地域はもちろんのこと、県内で必要相当数、至急確保すること。また、それらの施設で必要な器材の確保に努めること。

- ・ 医療崩壊を防ぐために、医療機関への支援を再度徹底すること。
- ・ 保健所業務の逼迫が懸念される中、資格が無くても実施可能な業務を切り出して補充するなど、人的体制の充実を図ること。

2. 警戒レベルや行動制限について

(1) 警戒レベルの発出

- ・ 東西に広く、置かれている状況も大きく異なる県内において、警戒レベルの発出を全県一律ではなく、各圏域あるいは市町ごとに設定するなど、これまでの分析に基づいたきめ細かな形とすること。その際には、県内市町長との情報や本音の共有を確実にすること。

(2) 行動制限・行動変容の要請

- ・ 本県での感染者が増加している現状においては、県境をまたぐ旅行キャンペーンの中断を決定すること。ただし、県内においては、観光地の感染対策情報を適切に発信および協力施設等として認定することで、最大限の後押しをすること。
- ・ 疫学調査を精査し、感染リスクが高い場所への移動や行動パターンの自粛を求めること。また、クラスター以外での感染者も以前に比べて多く確認される中で、より一段と気を引き締めて頂くよう、強いメッセージを発信すること。
- ・ 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の効果を高めるべく、県民へのアプリ登録を継続的に訴えること。

3. 「STOP! デマ誹謗中傷」について

(1) 情報公開のあり方

- ・ 陽性者が確認された店舗等で、感染防止ガイドラインを遵守していない場合には、店名を公表すること。
- ・ デマの拡散防止や適切な自衛行動を促すためにも、感染者の居住地の公表は「保健所管内」という表現を改め、市町名で行うこと。
- ・ 根拠のないデマや感染者等への誹謗中傷を県全体でストップさせるため、ふじのくに観光大使や県内で活躍のユーチューバーなどの協力を得て、「STOP! デマ誹謗中傷」キャンペーンを実施すること。

4. 経済や生活支援について

(1) 県内中小企業・雇用支援

- ・ 9月で打ち切りになると言われている雇用調整助成金制度の延長を国に要請すること。
- ・ チャレンジ補助金のように、これからの防疫先進県を構築するに資する民間の新たな挑戦を後押しできる制度を構築すること。

(2) 生活支援

- ・ 感染症対策に配慮した避難所の開設と、避難所運営ができる体制を整備すること。
- ・ 心のケアのサポート体制を今以上に強化すること。

5. その他について

(1) 県庁内での体制

- ・ 今秋から心配されるインフルエンザや肺炎球菌等の事前対応に万全を尽くすこと。
- ・ コロナ対策で疲弊している職員の健康管理を徹底すること。
- ・ 県の「感染症医療専門家会議」を次なるステージへ移行させること。

以上